

令和7年度 富士見市民大学 環境講座 VOL. 1 自然環境編 ブラタモリならぬ「ブラふじみ」しながら富士見の自然を学びます

5回講座の2回目、野外講座「湧き水の郷を歩く PART 1 鶴馬」を終えました。

日時 10月18日(土) 9:30～11:45

行程 市役所～諏訪の森～大御庵の杜～下鶴馬氷川神社(トイレ休憩)～谷津の森

参加者 18人

講師 埼玉県環境アドバイザー千種秀信氏

富士見市ふるさと探訪部会 高橋 満氏、保坂慎二氏



秘境、諏訪の森の木道を歩く

《諏訪の森》

ムクノキやシラカシを中心とする少し薄暗い自然林(極相林)、最近はお化けの放虫がおこなわれている、土地はご寄付と買上げで完全保全されている。雲居の滝は3m掘り下げて作った人工の滝(池)、講中の代参人が身を清めたり、出征兵士が武運長久を祈願したりした。また、水をせき止めて子供たちがプール代わりに泳いでいた。琵琶を弾く弁才天と人頭蛇身の弁財天が祀られている。祠の中の石造り人頭蛇身が盗難にあう。



湧き水の地形的説明

《氷川神社、諏訪神社》

富士見市保存樹木の説明、イチヨウ(雌雄異株)とケヤキ(雌雄同株)の花と実の説明、市の天然記念物指定、樹齢推定500年のケヤキ(欒)の説明

《大御庵の杜》

湧き水の場所は、市内に8か所あった水車の1つ「下の水車」があった場所、江戸天保年間(1830年代)名主横田家が開設、オオタカが営巣を続けて14年、湧き水の出口付近にはサワガニも生息する。



ホタルの成長過程と放流



巣の上で見張りをするオオタカ

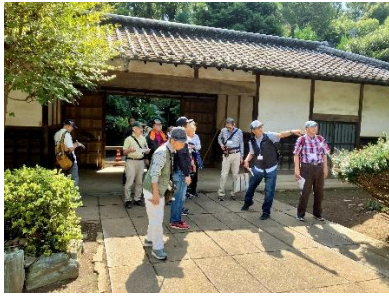
湧き水に住むサワガニ



弁財天の説明

《来迎の泉・来迎寺》

来迎寺の擁壁から水抜き用のパイプで流れ落ちる湧き水、水路は、「上の水車」「中の水車」から続く、かつての用水掘りの名残りである、天台宗の寺院、江戸時代中期には寺子屋を開設の記録あり、明治6年市内初の小学校が開設された。



横田家長屋門の前で

《横田家と大御庵》

元々は甲斐竹武田信玄の家臣で、江戸期から代々続く名主、10代は大正時代の鶴瀬駅開業へ尽力された、12代の当主は、屋敷部分を寄付、林は市が買い取って「大御庵（おおごあん）の杜緑地保全・活用事業」として整備を進めようとしている。令和5年度に約2.5億で土地取得して完全保全された。

《氷川神社》

横田家の先祖が中心となって村の開発がすすめられ、武蔵国一の宮氷川神社を勧請して創建された。



氷川神社と湧き水の関係性

《谷津の森》

昭和20年頃までは蛍が飛び交っていた。ヤツメウナギ、サワガニもいた。水は田畑や生活用水として利用されていた。弁財天の石の祠、蓬萊山亀宮弁辨天寛文12年（1672）と記される、令和7年度に約5億で土地購入

《受講者の声》

- ・家の近くに、こんな隠された場所があるとは驚きました。自然が残されているんですね。
- ・湧き水の場所に、弁財天と氷川神社が多い理由がよくわかりました。
- ・富士見市は、緑地や湧水の保全に力を入れているんですね。
- ・次回の針ヶ谷・水子を巡るのが楽しみです。

報告 千種 秀信